

まちかどトーク（中田地区）議事要旨

日時：令和8年5月18日（月）19:00～20:45

場所：中田コミュニティセンター

参加者：29人

1 市長あいさつ

2 市政に関する説明

「地区の現状と今後のあり方のひとつの提案」について地域課から説明の後、質疑応答

参加者

提示された中田地区の人口グラフについて、総人口における若年層の実数が分かるとより良かった。高岡市全体で若年層が減少し高齢者が増加する中で、中田地区の特徴を知りたい。

地域課

中田地区の世帯分布の傾向は、高岡市全体のグラフとほぼ同傾向である。新興住宅地のような急激な若年層の増は見られない。

近年は、夫側の実家に定着するよりも妻側の実家の近くに家を建てる若い世代の傾向があり、地域活動への関わり方に変化が生じている。

参加者

自身の自治会では、転入者が増えて元々の住民と半々の割合になりつつある。転入者の多くは妻の実家が中田近辺にある人々である。地域活動への参加が難しい面もあるが、獅子舞に参加したくて移住した人もおり、高校生や大学生、女性の参加も増えて活気づいている。

昨年度は、各種団体の合同開催の事例として、公民館での防災避難訓練を企画した。児童クラブや老人会などがいないため、過去の参加者や地元の医療機関に声をかけ、市や消防署の協力を得て、夏祭りを兼ねた形式で実施した。結果として約90名が参加した。

しかし、住民の中には行政が助けてくれるという依存心や、災害に対する諦め・しらけのムードを持つ者も少なくない。南郷大橋などが損壊すれば行政もすぐには来られないため、近所同士の協力が必要であると訴えている。市にはイベントの見直しや重ね合わせに向けた提案を期待する。

地域課

高岡市内では3地区が「多機能地域自治」を設立している。これまでの各種団体や自治会の活動内容を洗い出し、3世代交流を目的にeスポーツの大会と食育講座を組み合わせるなど、活動を重ね合わせるアイデアが実践されている。こうした事例を今後も支援し、共有していく。

参加者

住民の中に認知症と思われる方がおり、「自身の持ち物がなくなった」といった相談を受けて対応に苦慮している。自治会長が抱えるこうした悩みに対し、市のどの部署に相談

すればよいか教示してほしい。

地域課

地域課では、福祉分野からインフラ、公園のごみ問題まで、自治会長からの多様な相談を受け付けている。適切な担当セクションへの繋ぎ役を果たすため、まずは窓口として地域課の名前を覚えていただきたい。

3 意見交換

「高岡市人口ピラミッド」を基に、市長より説明の後、意見交換

参加者

高岡市には瑞龍寺や勝興寺などの国宝、吉久・山町筋・金屋町といった重要伝統的建造物群保存地区、さらには世界で最も美しい湾クラブに加盟する富山湾があり、歴史的・文化的に非常に高い価値がある。しかし、これらの魅力を広く PR する努力が不足している。

テレビで見た万葉ふ頭には屑鉄が積み上げられており、客船の乗客からも汚い港だと驚かされている。金沢には国宝がないにもかかわらず、立派な客船スペースを整備して多くの観光客を呼び込み、活気にあふれている。高岡も万葉ふ頭を綺麗な客船ターミナルとして富山県に整備してもらうなど、価値あるものを見せる努力を重ね、町全体を活性化させてほしい。

市長

高岡には潜在的な力がある。例えば、古城公園をきちんと磨き上げれば兼六園にも劣らないと考えているが、やるべき課題が山積している。万葉ふ頭のスクラップに関しては、日常的に物流で使用されている県管理の港であるため、目隠しの設置などを含め市単独では解決できない。

一方で、雨晴海岸には一昨年から多くの観光客が訪れ、休日には氷見線が満員になり交通渋滞が起きるほどの潜在力を示している。ただし、地域でお金を使う場所が少ないことが課題であり、現在対策を検討している。就任から 10 ヶ月が経過したが、根本的に取り組むべき課題の多さを実感している。

参加者

富山港の木材荷揚げ場だった場所も、現在はロシアからの木材輸入が途絶えたため屑鉄の山となっており、県全体の状況として懸念している。

参加者

市長が抱いている中田地区へのイメージや必要な施策について伺いたい。

市長

中田地区の祭りなどの共同作業は、地域の団結の象徴である。防災イベントに 90 名が集まるのは、地域力がある証拠である。常国などの団地があり、転入がある環境には期待が持てる。

高岡市全体を歩くと厳しい地域も多いが、中田地区にはまだできることがある。現在は市民協働型の公共交通が実施されているが、交通事業者との協力などを通じ、移動手段をより便利にする方法を検討したい。

参加者

中田地区では小学校と中学校の一貫校が計画されており、新規事業として来年度から予算配分が計画されていることはありがたい。地元にとって最重要課題であるため、新体制における市の方針や計画を伺いたい。また、地元の特性を盛り込んだ新校舎の建設を望んでいるため、今後も市との話し合いの機会を設けてほしい。

市長

計画では、来年度を目途に整備に向けた準備に着手するとしている。中田の一貫校整備は、自身にとってゼロから関わる最初の学校統合案件となる。建物のハード面だけでなく、教育内容も含めて、教育長ともすり合わせを行いながら、皆さんと一緒に新しい学校を作りたい。

参加者

庄川の上流域に産業廃棄物の最終処分場が計画されている。高岡市の水道局に確認したところ、伏木地区や庄川以東の住民を含め、ほとんどの人が庄川の水を飲んでいるとのことである。上流域は過去に大地震が起きた地域であり、将来的にコンクリートが劣化すれば水銀などの有害物質が漏れ出し、子孫の世代に影響が及ぶ。そのため中田連合自治会として反対の署名活動を行っているが、高岡市としてはどのように考えているか。

市長

深刻な問題である。高山市長、砺波市長、射水市長、南砺市長と話し合いを持った。他県のことであるため反対の声を直接上げるのは難しい面もあるが、富山県内の4市で足並みを揃えて同じ方向で動いていく。岐阜県知事の交代により状況が変化したようであるが、今後も問われれば同様の姿勢を説明していく。

参加者

旧中田市営住宅解体後の更地について、人口を増やすための宅地造成を提案する。令和6年8月に実施された埋設物調査に立ち会ったが、産業廃棄物は確認されず宅地開発に非常に適した場所である。分譲すれば若い世代の呼び込みに繋がるため、この空き地の活用を検討してほしい。

市長

該当の場所は居住誘導区域に含まれている。民間業者による分譲などの可能性を含め、どのような活用ができるか検討させてほしい。

参加者

常国地内の県道9号線は非常に狭く、大型ダンプのすれ違いが困難で信号待ちが発生している。通学路にも指定されており、何年も前からバイパスの建設を県に要望しているが難しいと言われている。地元だけの要望では限界があるため、市も一緒になって県へ働きかけてほしい。

市長

要望があることは承知している。市役所内で情報を共有し、県がすぐに動くことは難しいとしても、問題意識を共有してできる限りの対応をしたい。

参加者

自身の自治会に、男性が孤独死した特殊な空き家がある。管理されず雑木林のようになり、近隣住民が困っている。これまで県や市の環境政策課に問い合わせたが、手

つかずのままである。次の自治会長にも引き継ぐ課題であるが、どう対応すべきか。

市長

空き家問題は市内の多くの地区から深刻な相談を受けており、対応に苦慮している。今年度から自治会向けに上限 40 万円の解体費用補助制度を新設した。十分な額ではないかもしれないが、利用可能か検討してほしい。

参加者

市長は公用車を止め、徒歩や万葉線で市役所に通勤していると聞く。公共交通の利用は大切であるが、中田地区ではバスの路線や本数が減少した。私自身もたまに利用する程度であるが、加越能バスのウェブサイトは使い勝手が悪い。市長も多忙であるとは思いますが、移動手段の実態を意識してもらうため、例えば「かかし祭り」などの来訪時にバスを利用するような行動をとってほしい。

市長

公共交通の利用は非常に重要である。自身も万葉線によく乗車するが、乗客から様々な話を聞くことができ勉強になる。先日のけんか山でも氷見線を利用した。以前中田での集会時、「高校生の子供の送迎をせざるを得ない」という話を聞き、高齢者だけの問題ではないと痛感した。公共交通改革は容易ではないが、最大限の努力をしていく。

参加者

明るい高岡に繋がるような場所にするため、最終的にダイエー跡地をどのようにしていくのか、市長の考えを伺いたい。

市長

ダイエー跡地は立地が非常に良いため、明るい高岡の起爆剤にしたい。国土地理院のデータなども踏まえながら、いつかではなく具体的なスピード感を持って早期に活用方法を考えていく。

参加者

常国には大正時代に発足した「常国旧跡保存会」という会がある。加賀藩時代の一里塚や、木曾義仲ゆかりの観音堂、弓の清水などを管理している。弓の清水の近くには市が認定した源平合戦の古戦場石碑もあるが、山の上にあるため風が吹くと砂まみれになり、掃除や維持管理が非常に大変である。各家庭から年会費を集めているが、市からの助成金は少額であり、活動の継続が困難なため援助を増額してほしい。

市長

その保存会の活動については知らなかった。調べてみたい。